

漁港施設の最大限活用と漁場の生産力向上

日本ミクニヤ株式会社
水産エンジニアリングカンパニー

☎ 044-577-3928
✉ fujita@mikuniya.co.jp

URL <http://www.mikuniya.jp/solution/solution.html>

漁港・漁場の課題

漁港・漁場は、我が国における水産物の安定供給の基盤として、これまで継続的かつ重点的に整備がされてきました。現在、約 2,800 漁港が全国に点在し、周辺には漁村が形成されています。

一方、我が国は、少子高齢化や過疎化が深刻化するとともに、地震、台風、津波等の自然災害が激甚化する傾向にあります。このような中、水産物の安定的な供給と水産業の健全な発展のため、漁港のストック効果の最大化や漁村の活力を高めることが求められています。



図 漁港漁場再生技術導入案

漁港・漁場における弊社の取組

弊社は、創業以来、自然環境や社会環境における計画・設計、調査・測量、解析・評価、対処・対策の各段階で研究・技術開発、委託業務等に数多く携わり、そのフィールドとして漁港・漁場を対象としてきました。

具体的には、2005 年度より漁場の生産力向上のための改善事業として、有明海漁場改善事業に参画し続けており、2007 年度から漁港施設の機能保全事業（漁港施設の長寿命化と LCC 最小化）に参入しています。

② 漁場の生産力向上

有明海は、漁場の生産力低下によって、アサリ等の漁獲量が低迷しています。これらの漁場改善の調査研究、改善が求められ、国も「有明海及び八代海等を再生するための特別処置に関する法律等」に則って、調査研究や漁場改善の実証事業を行っています。

弊社では、諫早湾のアサリ漁場に近い諫早市小長井町の小長井オフィスに3名を常駐させ、長崎県（小長井、島原）や佐賀県（鹿島、七浦）の干潟でアサリ、カキ、サルボウ等の二枚貝類の調査研究、改善事業に取り組んでいます。

漁港施設の最大限活用と漁場の生産力向上

① 漁港ストック効果の最大化

全国に点在する漁港や漁港施設量を把握し、これらの建設年次、構造形式等を分析することで、今後の維持管理費用を推定し、漁港施設の整理統合のデータ集約や予算の平準化等を検討しています。また、全国各地の漁港機能保全計画策定業務を受託し、漁港診断と今後 50 年間の LCC を最小化させる計画を策定してきました。

今後、漁港ストック効果の最大化を図るため、大阪府、広島県、佐賀県等で既存施設の有効活用策を検討しています。



写真 有明海での各漁場

地下貯水工法

(プラスチック製滞水材による都市型洪水対策工法)

大成ロテック株式会社

営業本部 営業企画部

URL <https://www.taiseirotec.co.jp/>

☎ 03-5925-9436

✉ masazumi_mizuno@taiseirotec.co.jp

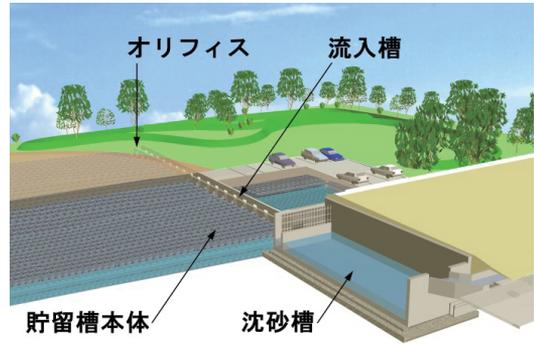
概要

近年、地球温暖化の影響もあり、世界的に気象変動による自然災害が多く発生している。

わが国においても、いわゆる「ゲリラ豪雨」といわれるような集中豪雨等による都市型水害が急増している。

このような背景のもと、平成 16 年には「特定都市河川浸水被害対策法」が施行され、雨水の急激な流出を抑制するための雨水貯留浸透施設の需要が増加している。

その中でもプラスチック製滞水材を使用する「地下貯水工法」は、下記のような特長が高く評価されて、数多くの施工実績をあげている工法である。



プラスチック製滞水材による地下貯留槽
模式図

特長

- ・プラスチック製滞水材を組み立て（積層・積み上げ）、貯水空間を構築します
- ・単粒碎石と比べて空隙率が高く、単位体積当たりの貯留効率に優れています。
- ・空隙率が高いため掘削土量が少なく、コンパクトな施設が可能となります。
- ・部材が軽量なため、人力施工が可能で、接合する部品が少ないので、設置ミスリスクが少なくて済みます。
- ・工場生産品のため、強度・耐久性・耐震性の信頼性を有しています。
- ・材質は再生ポリプロピレンで環境負荷が小さく、水質にも悪影響を及ぼしません。



施工中



施工完了

施工実績

(浸水対策事業に採用)

- ・栗東第一児童公園地下貯留施設工事（滋賀県）
- ・一本松地区雨水貯留槽設置工事（山口県）

他全国各地に施工実績あり